

平成26年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

第4回

平成26年9月26日（金） 午後6時30分～ 総合学習センター

『教育論文のまとめ方』

講師 岩津小学校教頭 田村 康則 先生

●『教育論文のまとめ方』

講師 岩津小学校教頭 田村 康則 先生

1 論文を書く意味は？

- (1) 自分の実践を検証する・・・論文をまとめることは、毎日流れていく教育の営みに節を作って、自分の指導や実践を深く見つめることです。授業の手立てがどれだけ効果的であったのか、成果が得られたかどうか等を反省することであり、充実した指導のあり方を創造することです。
- (2) 自分自身を飛躍させる・・・書くことは、論理性や客観性が要求され創造的な営みであり、読むこと・話すこと以上に困難です。それだけに、自分自身の成長と飛躍の状態を知ることができます。
- (3) 自分の営みを永久に残す・・・尊い実践を論文としてまとめることは、かけがえのない自分の教育の営みを永久に残すことになります。



<田村先生のご講演の様子>

2 論文にまとめるメリットは？

- (1) 教育実践について、指導の方向性や手立てがつかめ、教科教育や生徒指導、授業に対する自信がもてるようになります。
- (2) 授業に臨むときの態度が、よい方法はないかと常に課題意識をもてるようになります。
- (3) 自己を厳しく見つめ、日常の教育実践をふり返る姿勢が身に付きます。
- (4) 以前に比べて子供がよく見えるようになり、分かりやすい授業を目指すようになります。
- (5) テーマ設定から一貫性をもった見通し、考察の仕方が身に付き、仮説に基づく研究の大切さ、実証的な教育研究の進め方等が分かってきます。
- (6) 研究のまとめができると同時に、自分の教員生活の足跡をつくることができ、一つのものを完成させた喜びと充実感が得られるようになります。

3 実際に論文を書くには、どのような手順で書けばよいのか？

- (1) 研究主題を決定する・・・論文資料の表紙参照。できれば年度当初に決めておけるとよい。
- (2) 仮説を設定する・・・論文資料参照。必ず仮説を設定してください。
- (3) 研究単元と実践の方法を考える・・・11月下旬が市の論文のメ切なので、1ヶ月前ごろの10月下旬から書き始めたい。それを踏まえると、10月上旬には実践が終わっているとよい。したがって、実践を行うのは、5・6・9月ごろがよいか。その中で、重点的に研究する単元を決める。4月中には決めておきたい。日教教や教研大会等で聞いた他の先生の実践の真似でも悪くないが、ぜひアイデアを絞って自分独自のオリジナル研究を考えたい。また、実践していく上で抽出児を選んでその変容を追っていくとよい。

- (4) 実際に授業を行い、記録を残していく・・・資料として残しておくといものは次のものがある。①授業記録（できればその日のうちに授業の流れ等をメモしておくとい。録音しておいて後でテープ起こしをする方法もあるが、結構大変）、②写真（撮ってもらえる人がいない場合は、自分で撮る。デジカメをいつも持っているとい。子供の活動の様子だけでなく、授業後の板書は必ず撮っておくとい）、③子供のノート（授業日記を書かせるとい。感想だけでなく、集団解決での新たな発見や自分の進歩等について書かせるとい。ノートはできるだけこまめに集め、必ず朱書きを入れる）、④授業で使ったプリント（子供の考えが書いてあるものをコピーしてとっておくとい）、⑤座席表（子供の考えを座席表に落とし、日付を入れておくと、個々の変容が分かる）、⑥小テストや確認テストの点数の記録（子供の習熟度の変容が分かる）
- (5) 実際に論文にまとめる・・・論文資料参照。他の人の論文を実際にも読むことでイメージが湧いてくる。プロットを立ててから書き始める。考察を書くところが最も重要。考察を書く上で、あるいは、論文にまとめる上で、次のような留意点がある。

- ・できる限り多くの資料を集め、その中から精選した資料で客観的に考察する。「こうしました」という事実だけでは実践報告文になるので、考察を必ず入れる。
- ・抽出児の変容の事実を中心に分析し、手立てのどのような働きによってその変容があったのかを探る。「この手立てを打ったから、この子がこのように変わった」ということが読み手に伝わるような説得力のある書きぶりになるようにする。
- ・成果や変容の有無の判断をするには、その根拠となる事実を示してから結論付ける。根拠がないのに拡大解釈したり、憶測で解釈したりしないようにする。「児童Aはいつの間にか、〇〇ができるようになった」のように、根拠がない記述はしない。我田引水にならないように気をつける。
- ・事実を述べている部分と解釈や考えを述べている部分を区別して記述する。

◆考察の仕方の例（田村の論文の場合・『教育実践論文2 1』参照）

子供の様子や変化などの事実	その事実から考えられること
<p>・【解決方法の枠の拡大】資料4のときの$y = 15x + 1$の自力解決では式を求めることができなかつた生徒がたくさんいたが、次の形の追究では、<u>全員が式を求めることができた</u>。</p>	<p>・生徒Bや生徒Dの方法で解く経験をしたことで、資料6のような別の形でも式を出すことができたと思われる。自分では気づかなかつた方法を他の生徒から聞くことで、解決する手段の枠を広げることができた。</p> <p style="text-align: right;">《手立てウについての考察》</p>
<p>・【数学日記からの導入】資料7のC7～C15のように、生徒Cや生徒Eの日記をヒントに式の<u>秘密に迫る意見がたくさん出てきた</u>。特に重なり部分の面積と式の切片との関係に注目させることができ、解決につながつた。</p>	<p>・資料5のように、日記に対して考え方のよさを認め、次時への発表を促す朱書きを入れたことで、自信を持って自分の考えを発表させることができ、その日記を紹介したことで、話し合いを活発にさせることができた。</p> <p style="text-align: right;">《手立て力についての考察》</p>

自分の場合、上の表のように、まず子供の考え方や動きで変わった部分を具体的な資料を基に示し、その変化がどのような意味を持っているか、手立ての有効性という観点で記述した。

- (6) 完成したら自分で見直し、その後誰かに見てもらおう・・・1週間前には書き上げて、どなたかに見てもらおうとい。しかし、その前にまず自分で推敲する。誤字や脱字、文字の変換間違えがないか確認する。子供の実名や顔写真等の個人情報に注意する。今はパソコンで作っているので修正もしやすい。ちょっとした直しでさらによい論文となる。

※以前はA4の400字詰め原稿用紙30枚以内だったが、今はA4判用紙13枚以内となっている。

以内といっても、13枚目まで、できれば最後の行まで書けるとよい。

※最後は参考文献を示しておく。

※多くの論文を読むことが大切。

※前年度論文の講評を参考にするとよい。

※論文の前に、子どもがこうなってほしいと教師が思い、それに向けて授業を行う。

【質疑応答】

- 成果と課題が手立てごとに書かれているが、仮説ごととどちらがいいのか。
 - ・個人的には手立てごと書く方が書きやすかったが、仮説ごとにもよい。どちらでもよい。
- 授業の感想を載せるとき、子どもの字と打ち直したものとどちらが良いか。
 - ・子どもの字が読めるのであれば直接ノートを載せてもよいが、読みにくいようであれば打ち直したものを載せればよい。
- 効果的なアンダーラインの引き方は。
 - ・アンダーラインの色の意味を自分で設定して統一する。
 - ・絶対読んでほしい、強調したいところにアンダーラインを引く。



<質問する参加者の先生方>

算数・数学部以外の先生方も含め、50名近い先生方に参加していただきました。田村先生のご講演から、論文の書き方ということの前に、目の前の一人一人の生徒に願いをかけ、毎日の授業に向かう情熱・姿勢こそが大切だということを改めて感じることができました。大変勉強になりました。ありがとうございました。 <六ツ美中学校 石原昌仁>